

Hello! FUJISEI

No.247

メタボリックシンドローム

生活習慣病には内臓脂肪型肥満が関わる

糖尿病などの生活習慣病は、それぞれの病気が別々に進行するのではなく、おなかのまわりの内臓に脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満が大きく関わるようになってきました。

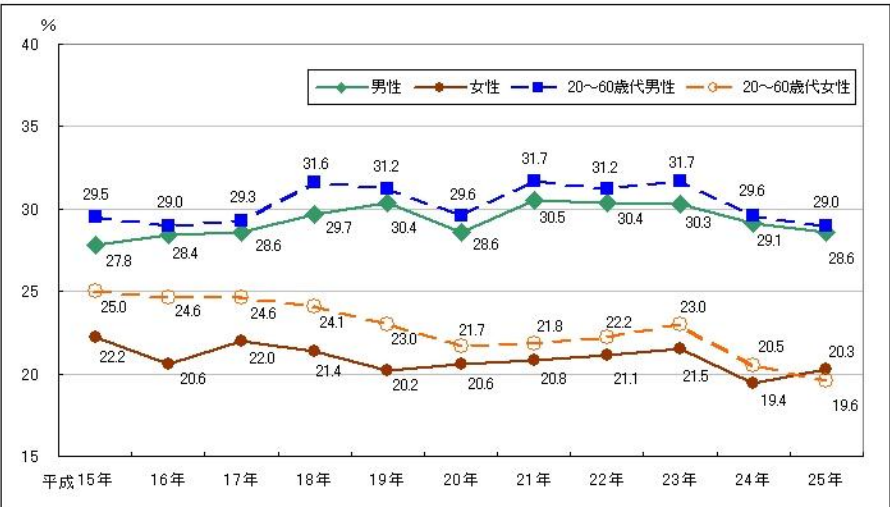
メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）は、内臓脂肪型肥満を共通の要因として高血糖、脂質異常、高血圧が引き起こされる状態で、それぞれが重複した場合は命にかかわる病気を招くこともあります。食べ過ぎや運動不足などの日常生活習慣の改善によって、予防・改善できるとされています。

厚生労働省の「平成25年 国民健康・栄養調査報告」によると、BMIが「ふつう」の範囲にあてはまる者の割合は、男性66.7%、女性67.4%で、6割を超えています。

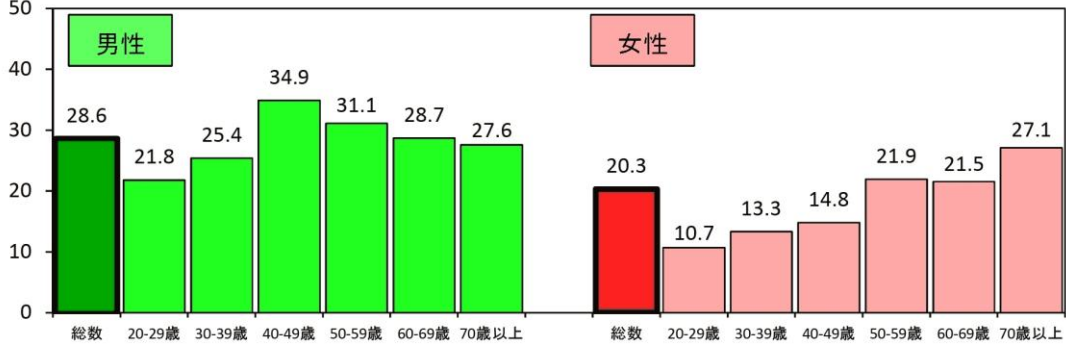
肥満者（BMI ≥ 25）の割合は、男性28.6%、女性20.3%で、女性に比べて男性が高くなっており、年齢階級別にみると、男性では40歳代がもっとも高くなっています。男性は平成15年からみると22年まで増加傾向で、平成23年からは変化が見られませんでした。女性は10年間で減少傾向にあります。

やせの者（BMI < 18.5）の割合は、男性4.7%で10年間で増加傾向にあります。女性は12.3%で、10年間で増加傾向にあります。

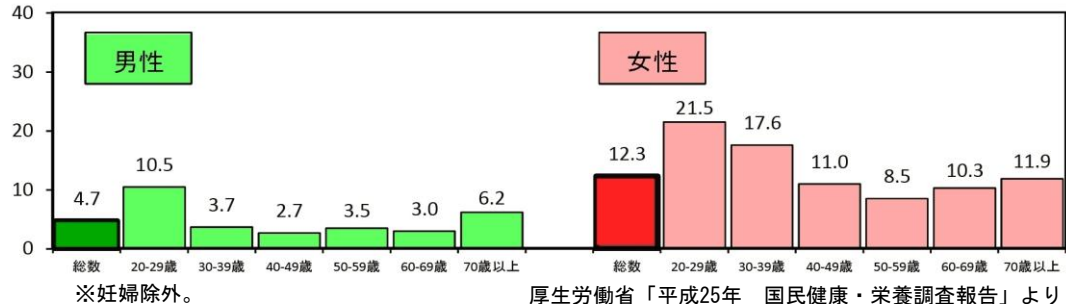
肥満者の割合の年次推移（平成15年～25年）



肥満者（BMI ≥ 25）の割合（20歳以上、性・年齢階級別）



やせの者（BMI < 18.5）の割合（20歳以上、性・年齢階級別）



厚生労働省「平成25年 国民健康・栄養調査報告」より

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
 神谷町MTビル